

## 令和2年度 総合政策学部 一般入試 後期日程

### 出題意図

現代ではインターネットやコンピュータなしではわれわれの生活が立ち行かないほど普及しているが、その影響には功罪の両面がある。最近の大学生は実生活上の諸問題に対してあたかも短絡的に正解が必ずあるかのように考え、その正解を知ることのみに興味を持ち、なぜそのような解答が導かれるのかの理由、仕組み、原理の解明・理解には関心が薄いという事態が見受けられる。総合政策学部生に対しては問題に対して「深く考える」姿勢が期待される。そこで、インターネットと「紙の本」の読書の関係を題材として取り上げ、文章読解力や文章の構成力、社会に対する関心・視野・想像力、そして、基礎的な数的分析能力を問うことを意図した。

問1. 資料Aの下線部が具体的に意味していることを25字以内で記しなさい。

【解答例】わたしの集中力と思索力をそぎ取っていること (21文字)

\*ねらい： 文章読解の基礎力

\*採点基準： 作者の主張を理解できているか。

問2. 資料Bによれば、記事が書かれた2018年の5年前からの5年間での、ネット依存が疑われる中高生の数の伸び率は何パーセントであるか。四捨五入して2桁の数値で答えなさい。

【解答】75%

\*ねらい： 統計分析・計量分析の基盤である割合や比の考え方の理解、基礎計算力

\*採点基準： 伸び率の概念を正確に理解し、正確に計算できているか。

問3. 何故、インターネットを長時間使用していることが、集中力や深く考える能力の欠如につながるのか、その因果関係を資料(A)、(C)、(D)を踏まえて、250字以内で説明しなさい。

【解答例】インターネットやコンピュータの画面上で長時間を過ごすと、スクリーン上に行き交う大量の情報や刺激によって、たえず、間断なく反射的に焦点を移すことを余儀なくされる。これにより、人間の脳は本来の自然状態である注意散漫の状態に戻されてしまうことになる。その結果、われわれは、長い文章を黙読することを通し人間が長い時間をかけて

築き上げてきた「没頭する＝自分を失う」という能力を退化させることになる。そしてついには「深く考える」という能力を失っていくことになる。(225文字)

\*ねらい： 文章の読解，要約力，構成力

\*採点基準：

- ・複数の資料記述している事項のあいだの相互関係を把握できているか。
- ・全体を整合的な統一された文章として構成できているか

問4. インターネットの使用が不可避となりつつある現代社会において、注意散漫に陥らずに自分自身の考えを深めていくためには、わたくし達はどのようにしていくべきであるか。資料の内容を踏まえ、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

#### 【解答例】

注意散漫に陥らずに自分自身の考えを深めていくためには、パソコンや携帯電話のスクリーンをそっと閉じ、集中力や思索力を取り戻すための時間を確保すべきである。そのような時間の使い方としては、例えば、落ち着いた静けさの中で「紙の本」に目を落とし、じっくりと読書をする事が挙げられる。なぜならば、人間が深く思考する力を獲得してきたのは、長い文章を黙読する文化を通してのことだからである。

スクリーンを閉じて深く思索する時間を確保する方法は、読書以外にも考えられる。散歩や登山など、自然に触れ合うことを通して、自分と向き合う時間をもつことは、脳の状態をリフレッシュさせるためには有効である。また、「深く考える」習慣をつけるためには、自分とは異なった意見をもつ生身の他者と対話することも、考えるヒントを自分のなかにとり入れることができ有効である。さらに、日記をつける、あるいは自分のための文章を備忘録的に書き記す習慣をもつことも有効である。単に読書するよりは、あるいは単に対話するよりは、それらから得たヒントや刺激を自分の中で温め、ふ化させた後で、自分で考えた事柄を整理して何かに書き留めるという習慣を持つことが重要である。人が何かを「考える」場合、たいていは言語という道具を通して考えるのであるから、「深く考える」ためには、他人の言葉を読み、自分の言葉を書き記すという行為の繰り返しが本質的である。(594文字)

\*ねらい： 総合的な思考力，現実社会に対する関心・視野・想像力

\*採点基準：

- ・資料の内容を踏まえているかどうか。
- ・主張に合理性があるかどうか。
- ・整合性のある文章を書けているか。
- ・誤字脱字がないか。